

認定されたら何が変わるの？

ここまで認定についてお話しをしましたが、「結局、鹿追中が認定されたら何が変わるのか？」が気になるところではないかと思います。

はっきり言って、基本的に認定された瞬間に急激に何かが変わることはありません。

私たちはすでにトライアルとしてIBの取組を開始しています（2年前から研修を始め、1年前から本格的な実践を開始）。

その実践を通して既に

「一定の成果が出始めている・今後の成果も見込める」ことを受けての認定ですので、これから何かが変わるというよりも、

変化はすでに始まっているのです。

今後もそれを継続・発展させていくことだと思しますので、例えば「M1グランプリ優勝！」の様に、獲った次の日から人生がガラリと変わるようなことはないのです。

加えていえば、「英検〇級を持っていると進学時に内申点で有利！」のようにIBの認定校を卒業したということで、何か新たに資格を取得できるわけでもありません！悪しからず。（このあとDPというIB高校バージョンがある学校に行けばそうした資格が得られます）

では、この取組に意味がないか？といえはそうではないと考えます。（私も当初はちょっとそう思っていました。笑）

色々ありますが大きいところでは、生徒が「一定の質を担保された」中学校生活3年間を通して得られる経験や身につけたスキルが、一般の公立中学校の生徒と比べ明らかに突出してくること。これは間違いないと思います。

それは例えば面接の場面で生徒一人一人の語りの質に必ず現れていくと確信しています。前号で紹介した最上さんと木村さんの総合的な学習の時間での取組を思い出してみてください。「町の課題を解決するため、自分たちで映画上映を企画し実行した」という学習経験について面接時に語ったとします。

その語りは英検〇級取得しています。に全く引けを取らない印象を採用者側に与えるはずです。この3年、IBのフレームワ

一クを通して鍛えられる彼らの「課題解決能力」は、必ずや向かう先の大人を驚かせ、「即戦力」として目に映ることでしょう。

認定されたら何が変わるの？その2

国際バカロレアの認定事業は文科省が推奨しているものです。

仔細は省きますが、2013年に国際バカロレア機構と文科省が協力協定を結んでから12年が経ち、現在全国には約250校(令和6年12月31日時点)の認定校があります。

その内、中学生が学ぶMYP校は40校。ほとんどが私立です。

更にこの中で、**学区制の一条校（公立の中でも入試ではなく、地元の生徒が全入する学校）**での認定校は高知県の香美市立香北中学校1校のみです。

つまり、本校と瓜幕中が認定されることになれば、学区制の学校としては**全国で2例目**ということになることが予想されます。

また、PYPを取り入れていない、完全単独MYPでの認定校としては**全国初**となります。新聞が好きそうなワードですね。

ということで、認定前後の大きな変化を一つ上げるとしたら、「大きな注目を受けること」です。

その注目はIB校からだけではありません。**全国の公立校が今、現行の指導要領で求められている学びの実践に苦慮しています**。文科省が取り入れを積極的に推奨してきた背景にも、IBの教育が、そうした日本の教育の改善に資するという考えからです。今現在、高知の香北中学校がそうであるように、鹿追中学校にも全国から熱い視線が注がれていくことになるでしょう。

ライザップ然り、オリンピック然り、**注目は人の力を引き出し成長させます**（とある実験ではアウェイよりもホームの試合の方が20%もパフォーマンスが向上したというデータも）。

鹿追中・瓜幕中両校ともまだまだ伸びしろがありますし、鹿追高校の先進的な取組も含めて、鹿追町そのものへの注目度も上がるのではないのでしょうか。先述の通りこれは、鹿追町全体のパフォーマンス向上に繋がる。ともいえるはずです。

これは**子どもたちを起点とした「町興しである」**と、私は考えます。鹿追町ほど、教育に関わる予算付けに力をかけてくださる町は決

して多くはありません。その投資に対して、報いていくチャンスが訪れています。

この神輿がどこまでいけるのか、私は子どもたちの変化を間近に見ながら、一層楽しみになってきているところです。

そしてできるだけ遠くにいくには、地域のみなさまのご協力が必要であることも強く感じています。

ですから私が異動するまであと数年の間、地域のみなさまに一人でも多く、この祭に参加していただけるように努めていきます。

まず、この長い通信をここまで読んでいただいている時点で、あなたはもうこの祭りの参加者です！！奥平まで直接ご連絡ください！笑 できることはなんでもあります。

以上です。

改めまして1年間ご覧いただき、ありがとうございました。

次年度も何卒よろしく申し上げます。

国際バカロレア MYP コーディネーター 奥平 和也

バックナンバー	概要
<p>鹿中 IB 通信 NO.1</p> <p>↑クリックするとアクセスできます。</p>	<p>この通信の趣旨や国際バカロレアとは何か?について書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.2</p>	<p>年度当初に行った生徒向けの IB オリエンテーションについて書いています。当日の動画や資料も見られます。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.3</p>	<p>こちらは保護者向けの IB オリエンテーションと、同日行われた参観授業（国語）を IB 視点で解説しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.4</p>	<p>参観授業紹介第二弾です。理科の授業の内容を《概念》と絡めて書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.5</p>	<p>参観授業紹介ラストです。社会と保健体育の授業の内容から《IB で知識の定着にかける時間が減る問題》に対する工夫について紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO.6</p>	<p>IB 教育の大きな柱であるATL スキルと 10 の学習者像とはどういったものかについて、道徳の授業実践を元に解説しています。</p>

<p>鹿中 IB 通信 NO,7</p>	<p>十勝毎日新聞の記事になったというお話と、1学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,8</p>	<p>子どもたちが「総括的評価課題」に取り組む様子の紹介と、2学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,9</p>	<p>「SA」「CP」についての説明の前段としてのお話と、3学年の Unit1 総括的評価課題の概要一覧を紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,10</p>	<p>「SA」についての具体的な説明や生徒たちの夏休みの宿題について書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,11</p>	<p>「コンサルタント訪問」についての説明や面談に向けての生徒や保護者のみなさまとのやりとりについて書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,12</p>	<p>「コンサルタント訪問」の実際の中身と主に生徒たちの面談での応答について紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,13</p>	<p>「文化祭と日常の学びの繋がり」について書いています。《前編》</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,14</p>	<p>「文化祭と日常の学びの繋がり」について書いています。《後編》</p>

<p>鹿中 IB 通信 NO,15</p>	<p>「コミュニティプロジェクト」についての説明と発表会の告知をしています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,16</p>	<p>2学年の総合的な学習の時間「未来への提案」の内容と目的について紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,17</p>	<p>保護者懇談会の中身と生徒の総括的評価課題の成果物について紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,18</p>	<p>2学年の総合的な学習の時間「自分探究プロジェクト」の内容と目的について紹介しています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,19</p>	<p>2学年の総合的な学習の時間「未来への提案」の発表会のお知らせをしています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,20</p>	<p>「未来への提案」の発表会の動画と、「総合的な学習の時間と各教科学びの繋がり」について書いています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,21</p>	<p>「自分探究プロジェクト」の実践のひとつについてのご紹介と関係するイベントの告知をしています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,22</p>	<p>IBに関するPTA保護者のみなさまとの座談会の模様についてご紹介をしています。</p>
<p>鹿中 IB 通信 NO,23</p>	<p>コンサルティング終了と認定に関する取組について書いています。</p>